

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第二十主日礼拝のしおり

2022 年 10 月 23 日

前奏

招きのことば：詩編 84 編 2-8 節

万軍の主よ、あなたのいますところは どれほど愛されていることでしょう。

主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。あなたの祭壇に、鳥はすみかを作り つばめは巣をかけて、雛を置いています。

万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。いかに幸いなことでしょう あなたの家に住むことができるなら まして、あなたを賛美することができるなら。

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し 心に広い道を見ている人は。

嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう。

彼らはいよいよ力を増して進み ついに、シオンで神にまみえるでしょう。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはあなたに祈るように招かれています。イエス様の名前によって祈る祈りは聞かれると約束されています。イエス様は私たちのために十字架で死んで、よみがえってくださいました。私たちは神様の愛することもとされて、天の父なる神様に心から安心して祈ります。しかし、つい自分を神様の前で立派に見せたり、大きく見せたりしなければいけないのではないかと緊張します。また、ほかの人が気になって、自分は神様からどう見られているかを心配してしまいます。どうぞすべての罪を赦されているのですから、また新しいいのちをいただいているのですから、私たちが確信を持ってイエス様の名前でお祈りする祈りの言葉をお与えください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第二手紙 4 章 6-8 節,16-18 節

わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるので。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。・・・

わたしの最初の弁明のときには、だれも助けてくれず、皆わたしを見捨てました。彼らにその責めが負わされませんように。しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。そして、わたしは獅子の口から救われました。主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように、**アーメン**。

福音書朗読：ルカによる福音書 18 章 9-14 節

自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言った。

『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』 言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』

讃美歌 502 番

- 1 いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす
主より たまわる 天(あめ)の糧に 飢えし心も 飽き足らいぬ
※世にある限り、きみの栄えと いつくしみとを 語り伝えん
- 2 救いの恵み 告ぐる我は 楽しみ溢れ 歌とぞ なる
滅びをいでし この喜び あまねく人に 得させまほし ※
- 3 くすしき恵み あまねく満ち、あるに甲斐なき 我をも召し
天(あま)つ世継ぎと なしたまえば、たれか洩るべき 主の救いに ※ **アーメン**

説教：「うぬぼれて他人を見下す人々へ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

神様の前に来るとき、人は緊張するものです。礼拝に来ると、神様の御前にいるわけですから、何等かの恐れを感じない人は少ないと思います。そのとき自分を装ってしまう誘惑があります。イエス様はひとつのお話をされました。ふたりの人が祈るためにエルサレムの大きな神殿に行った時のことです。私のすべてをご存じで、何でもおできになる神様の前にたって、ふたりはそれぞれどのように祈ったのでしょうか。

ひとりはファリサイ派の人でした。イスラエルの人々に、神様の御心にそって生きることを毎日教えていた人でした。ファリサイ派の人々はイスラエルの人々の間でとても重要な働きをしてきた人々です。ファリサイ派の人々は百年ほど前から神様の御心を生きることと専念し、イスラエルの民が神様の御心を生きようになるために力を尽くしてきました。イスラエルの人々の住んでいる各地に学校や会堂をたくさんつくりました。そこで手分けして教えてきたのがファリサイ派の人々でした。他の、神様を知らない人々とは違う清らかな民族として区別されるようになるように、民のために尽力してきました。人々に、特別なときに神殿に来て礼拝するだけではなく、神様の御心を毎日生きていくように教えてきました。この人が久しぶりに神殿に来て、神様に心の中で報告の祈りをしています。心の中でお祈りしているので、ほかの人に聞かれはしなかったと思いますが、イエス様は人の心がわかるので、どんなお祈りをしているかすべてご存じです。

「神様、わたしは立派な人生を歩いています。あなたの御心をすべて踏み行っています。たとえば、週に二回、断食して祈っています。また、全収入の内十分の一は、旧約聖書に書かれて

いるとおりに神様におさげしています。私は人からお金や財産を奪い取ったり、不正にお金をだまし取ったり、自分の奥さんではない人を自分のものにするような、まちがった人生を送っていない人であることを感謝いたします。特に、あそこにいる徴税人のような者ではないことを感謝いたします。」ファリサイ派の人は神殿に来てこんなお祈りをしたということです。

どう思われますか。人には聞こえないように心の中でこのように祈っていたのですが、これは強いうぬぼれのあらわれですね。ほかの人たちとくらべて、あの人のようではないことを感謝します、という高慢なお祈りです。イエス様はこの人のお祈りをどう思われたのでしょうか。

けれども神様の御心を歩むことを心がけることがわるいことだということではありません。また、このファリサイ派の人は決まり以上のことをしてきました。年に一回の断食が決まっていたが、週に二回、月曜日と木曜日に断食をしていました。また、申命記では畑や果樹園の収穫物や家畜からの収入の十分の一を献げなさい、とありますが、この人は全収入の十分の一を献げていると言っています。自分の毎日をきちんと律しています。小さな目標を立てて、それに沿って力を尽くします。神様に報告に来ます。ほめてもらおうと次に進む励ましになります。そのためにも神殿に来て祈っています。神様に感謝し、神様の御心を大切にして歩むことと、自分は正しいと言ってうぬぼれることとの違いを考えさせられます。

ここにもう一人の人が来ました。徴税人です。ルカによる福音書によく出てくる仕事の人です。この人は神殿の中に入っていくこともできず、遠くに立って、目をあげることもできず、胸を打ちながら、「神様、罪びとのわたしを憐れんでください」と祈りました。そして、神様に義とされて家に帰ったのは、この徴税人であって、さきほどのファリサイ派の人ではない、とイエス様はおっしゃいました。徴税人は、神様、こんな私ですが、私を憐れんでください、と祈りました。

徴税人の仕事は、イスラエルを支配していたローマ帝国の強大な権力を背景に、支配者のために同胞のイスラエルの人々から税金を徴収してローマに渡す仕事です。しかも多めに徴収して自分のものにする裏工作もしていました。敵国の使いとなって自分だけ豊かに暮らしている徴税人は、誰にも受け容れられない嫌われ者でした。

義とされたのはこの徴税人です、とイエス様はおっしゃいました。それはどんなことでしょうか。日ごろ奪い取ったり、不正をしたり、姦通を犯したり、徴税人のようにたくさん悪いことをして自分中心に暮らしていきながら、ときどき神殿にきて、神様、わたしを憐れんでください、と祈ると、神様に赦してもらえるのだから、これからは断食したり十分の一をさげたりしてファリサイ派の人のようにまじめに生きていくのをやめなさい、ということでしょうか。もちろん、そうではありません。このお話をなさるとき、最初にイエス様は、自分は正しいとうぬぼれて他人を見下している人々に対して、ふたりのお話を始められました。お話に出てきたファリサイ派の人はうぬぼれていました。そして他人を見下していました。同じように、うぬぼれて人を見下す人がいたのです。それでイエス様はこのお話をなさったのでした。

うぬぼれは自分は正しい人だ、と思っていることです。その人は他の人を見下します。そして神様の前に出るときに自分の信仰の立派な成果を話します。立派な成果がないときは、自分の努力や心構えを神様に報告します。あるいは、前はできなかったことができることを報告して、信仰の成長を誇らないでしょうか。教会のことや家庭のことや社会のことで、私は見るべきものをみている、神様のみ旨にそった正しい判断を心がけている、と胸を張らないでしょうか。神様の前に来て、恐れなく、そのように自分を誇ることがうぬぼれです。その人は必ず他の人を自分よりもまだ成熟していない未熟な人を相手にしません。あるいは反対に、徴税人のようではないことを感謝します、と言ったファリサイ派の人のように、この人という自分が優越感を持てると思ってしまうかもしれません。うぬぼれによって人を見ること自体、相手の人よりも罪深いことを表していることに気づきません。イエス様はそうに神様の前で自分は正しいと思っている人がたくさんいることをご存じです。そして、このお話によってその人々に気づきを与えるのです。罪びとのわたしを憐れんでください、と祈るように教えているのです。

イエス様は最後にこのように言われました。「高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められます。」自分は正しいと思ってうぬぼれている人が高ぶる人です。私たちはどうでしょうか。気づかないうちに相当うぬぼれていないでしょうか。人には気づかれません。しかし、イエス様はわかっておられます。そしてその態度は人を自分の正しさを証明するためだけに存在しているように思ってしまう。そのようにして、人をたくさん傷つけています。イエス様はしかしもっと大切なことをおっしゃっています。うぬぼれているひとは義とされないのです。

うぬぼれている人は、信仰生活の真ん中からイエス様を締め出します。うまくいくとうぬぼれ、うまくいかないと言い訳を考えます。本当は、罪びとの私を憐れんでくださるイエス様によってすべての罪を赦されて、神様が古いものは過ぎ去ってすべてが新しくなった、ということで私に新しい心をつくってくださったから、進んでイエス様のために生き始めます。ある人は赦された喜びによってみ言葉の力に励まされて十分の一のささげものも、進んで断食して祈る心が与えられます。ある人は仕事で同僚や取引先の人を傷つけないで、与えられている使命に誠実に創造的に取り組む喜びが与えられるでしょう。ある人は誰かに褒められることなど心にも浮かばないまま、細かい心配りをもって家族に仕えて幸せをつくっていくでしょう。それはすべて、罪びとの私を憐れんでください、と神様の前にへりくだって祈りから始まります。そしてその人は高くされますが、心はへりくだったままです。うぬぼれません。

使徒パウロは、手塩にかけて育てていたテモテにこのように書いています。テモテへの第1の手紙1章15節です。「キリスト・イエスは罪びとを救うために来られたということばは真実であり、そのまま受け入れるに値します、そして私はその罪びとの最たるもの、最もひどい罪びとです。その私は憐みを受けて赦されて新しいいのちを得ました。それは私がそれによってうぬぼれるためではありません。むしろ、このようなどうにもならない罪深い私をも、イエス様は忍耐の極みを尽くして深く愛してくださるという、神様の誉と栄光を体現する見本、すなわ

ちサンプルなのです。これからイエス様を信じて永遠のいのちを得ようとする人が、私のような罪びとでさえイエス様は見捨てず導いてくださるということを見て、安心するためです。

ですから、いつまでも「罪びとのわたしを憐れんでください」と祈るのです。罪びとを赦し、新しい命を与えてくださるイエス様がいつも信仰の中心です。イエス様は忍耐強く、私のようなものを憐れみによって受け入れてくださり、私を新しくして人々と共に幸せを作る使命に生きるようにしてくださり、神様が自分のよいところを見てくださるためではなく、人に褒められたり、人に優越感を得るためではなく、共に歩んでいる人のために全精力を用いて、工夫して、自分を鍛えて、一緒に幸せをつくっていくのです。

知らず知らずのうちにうぬぼれています。自分は大丈夫、と思いたいからです。そして自分は大丈夫と言えるようになることが、成熟した信仰者の在り方だと勘違いに陥ります。自分はいつまでも大丈夫ではありません。自分はいつまでも、罪びとのわたしを憐れんでください、と祈り続けます。イエス様は罪びとを赦します。うぬぼれている人は自分で満足していて、イエス様の憐みを求めません。自分の少しの成長を自分で実現できたと喜んで、イエス様から心が離れます。神様の前でうぬぼれると、人のまえでもうぬぼれます。神様のまえでうぬぼれているのに、人のまえで本当に謙遜になれません。人のまえで本当に謙遜で、人を生かす人はまず神様のまえでへりくだる人なのです。そして神様のまえでへりくだる人はイエス様によって罪赦されて、新しい命を得るのですから、自分と人をくらべて一喜一憂することから自由になります。劣等感に悩む束縛から、神様に憐みをいただくことで自由になります。

イエス様はファリサイ派の人のしていること、徴税人のしていることのどちらが正しいかということを話題にしています。むしろ、うぬぼれて人をさげすむことは、ファリサイ派のような人にも誘惑となることを示しています。

礼拝で今、神様のいまえに出ています。まず神様が罪びとである私たちを招いてくださったこと、み言葉によって神様のまえに悔い改めに導かれ、イエス様によって罪の赦しと新しい命を与えていただいたことを感謝いたしましょう。そして、義とされたとはいえ、世にあってまだ活発に生きている古い罪深い自分から、主イエス様のほうに向きを変えて、罪びとの私を憐れんでください、と祈りましょう。今週もなお新しい心をもって、教会で、社会で、家族の間で、ともに幸せをつくるために役立って歩んでいきましょう。罪びとである私たちを憐れんで、忍耐深く導いてくださる主は、感謝なことに、へりくだって歩み、神様の憐みによって生きる私たちの歩みを、これからイエス様の恵みにあずかっていく人々への見本としてお用いくださいます。

「ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』」 ルカによる福音書 18 章 13 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌,526 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主よ、我が主よ 愛の主よ 主は我が身の 救い主
※かくまで主を 愛するは 今日初めの 心地して
- 2 主は十字架を まず負いて 愛の御手を 述べ給う ※
- 3 生けるときも 死ぬる日も声の限り かく歌わん ※
- 4 玉の冠 受くるとき この歌をば 主に献げん ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏